

デザインを取り入れ ユーザー目線でのものづくり

目の前に買いたい物が2~3種類あったとしたら、目を引くものから手にしてみるのではないのでしょうか。目を引くデザインを考えることはやはり重要です。

機能がどんなに優れていても、デザインの配慮が足りないだけで三流品の如く興味すら持っていただけないとなればあまりに残念です。本来、重要なことは機能や性能ではありますが、第一印象となるデザインは重要だということです。

当社は品質・性能そして機能性がすべてという産業用装置の開発も行っておりますが、これからの時代は産業用装置においても操作性とデザインを併せ持つ要求が高まるはずですので、デザインへの要求は今後益々広がりを見せるものと思います。



代表取締役社長 田上 寛氏



ルーチェグラス(ウェアラブル体内時計調節器)

製品デザインの原点は抽象的なキーワードから

当社の製品デザインは、主にデザイン担当社員4名が行っています。

製品デザインに入るときには、具体的なキーワードを提示しないようにしています。製品デザインの始まりのイメージは、「かわいらしい」「スタイリッシュ」のような抽象的なキーワードにすることが大切です。もし、「丸くてかわいい」などと形状が制限されるキーワードにしてしまうと、自由な発想が失われてしまうからです。

自由な発想から生まれるいくつものデザイン案をもとに、社内で率直な意見を出し合い、製品コンセプトやターゲットに適したものに絞り込んでいきます。デザインがコンセプトとずれているときには、デザイン過程を見直し、とらえ方を改めながら完成品を作り上げます。

『ルーチェグラス』を開発した際は、商品企画として「国際便のパイロットやCAなどが、仕事を終えてホテルに戻り『ルーチェグラス』を使用した後、室内に置いても違和感がない」といったストーリーを描きました。デザインにあたっては、「シャープ」「洗練された」という抽象的なイメージを持たせたところ、ユーザーの方からもかっこいいとの声をいただき、デザインが伝わっていることを感じました。



電気式人工喉頭「ユアトーン」

社内でデザインができる環境作り

電気式人工喉頭『ユアトーン』の初号機を開発した際は、外観のデザインを外部に委託し完成させましたが、2号機以降はすべて社内のデザイナーが設計し製品を開発しています。

ものづくり企業として成長するためには、やはりデザインは重要であり、社内にデザインの出来る人材とデザインを推進する組織としての環境は必要と考えています。

当社は製品を設計するにあたりデザインを第一に考え、そのデザインの中に部品関係が組み込まれるように構造設計しています。

このようなステップで設計を進めると完成した製品の姿は最初のデザインから大きく変わることなく満足の製品に仕上がります。

社外デザイナーの活用という点では、基本的にはあまり外部にはお願いしないようにしていますが、それでも時々社内デザイナーの思考への刺激のために製品パンフレットの制作などの際に委託してみることもあります。

動きのある製品を開発するには、デザイン設計者と機構設計者が必要であり、当社にはその人材と組織があるというのが現在の強みとなっているのかもしれない。

将来の製品開発に向けて ～ロードマップミーティング～

当社では、異なる部署の若手社員4～5名で数チームを作り、将来に向けての製品開発ロードマップを作製する「ロードマップミーティング」を2～3週間に1回、1時間ほど行っています。私(田上社長)自身もチームから声がかかるとミーティングに参加します。

このミーティングでは、現在の製品と将来開発したい夢の製品との2点を線で結び、その途中段階の製品をデザインも含めて話し合います。ミーティングメンバーは、他の人のアイデアを否定することなく自由に議論を重ねて、毎回、何かしらの結論を導き出しています。

ロードマップミーティングにより、商品開発の心構えと導入部分を体験し、先の先を見通す力と発想力を高め、夢の製品に見合う技術力を身に付ける目標を持つことにも期待しています。



会社概要

【所在地】 江別市工業町8番地の13

【TEL】 011-380-2113 【FAX】 011-398-6668

【事業内容】 電力監視制御装置の開発、ダム管理システムの開発、福祉・医療・健康機器の開発等

【従業員数】 111名

【設立年】 1977年

【URL】 <https://www.dencom.co.jp/>